

## 読みを通して深まった考えを表現し、成就感を得る学習活動を目指して

～意見発表会を発展部に取り入れ、意見交流できる活動場面の設定～

### 1 授業改善の視点

#### 〔発展部の工夫〕

テーマや筆者の考えに対して、自分の理解の深まりや考えを明らかにする場を大切にする。

昨年度の調査結果により、授業の発展部には上記の視点からの授業改善の工夫が必要であると考えた。

教材文の内容を正確に読み取り、理解するだけでなく、その内容を基に自分の中で考えを深めたり、広げたりすることが生きて働く国語の力となってくるわけである。そのためにも、発展部では生徒が自分の疑問や課題について調べて発表するなど、自分の思いや考えを表現する学習活動の場が必要である。さらに、自分だけでなく、他の人の見方や考えを知ることにより、互いの見方や考え方のよさを認め合い、より深まっていくものと考えた。そこで、発展部ではお互いの意見交流ができるような活動場面を設定し、学習形態はもちろんのこと、交流の方法にも工夫を凝らし、活動の楽しさや成就感を得られるようにした。

#### 展開の構想

##### (1) 初発の感想を基にした学習課題の設定

生徒の主体的な学習姿勢や学ぶ喜びをはぐくむためには、自分たちの手で学習を進めているという実感をもたせることや、学習を通して、自分の見方や考え方がどのように深まったかということを実感させることが大切である。また、この段階で学習の目的や意味付けを明確にすることも必要である。

そこで、まず筆者の見方や考え方について賛同できることや納得のいかないところ疑問に思っているところなどを感想にまとめる。さらに、この感想をお互い交流し合うことによって、見方や考え方がわかり、問題意識が深められる。この問題意識を基に、教材文を読み進めていく。この初発の感想は、生徒にとっては学習後の自己の変容をつかむ材料になる。また、教師にとっては生徒一人一人のテレビに関する興味・関心の度合いや今までの接し方などを知る手がかりとなるので、これを基に今後の生徒の向上、変容に生かしていかなければならない。

##### (2) 学習を振り返る場の設定

教材文を学習し、得た情報を基に、まとめとして、筆者のテレビに対する見方や考え方について振り返り、再度自分なりの考えをまとめる。初読後に書いた感想と比べ、自分の学習がどのように広がったか、深まったかを自覚させたい。さらに、もっと調

べたいことや、もっと考えてみたいことなどをまとめ、次の学習へとつなげていく。

発展部の学習後にも、単元の学習を振り返る場面を設定する。これまでの学習を基に、「これからのマスメディアとの付き合い方」というテーマで、自分の考えをまとめる学習を位置付ける。ここでも、自分の学習が意見発表会等を通して更にどのように深まったか広がったかについても振り返るように助言する。

### (3) 発展部における発表会

発展部の学習では教材文から得た情報を基に、様々な情報との付き合い方に対する自分の考えを深めさせ、学習の成就感や達成感を味わわせたい。

そこで、生徒がまとめた「もっと考えてみたいこと、みんなで話し合ってみたいこと」を基に、教材文に書かれていること以外のテレビの危険性や、他のマスメディアの優位性、危険性、上手な付き合い方などについて考えさせ、発表会を行う。どのマスメディアについて発表するかは、グループで考えて決める。教師は資料の提供や、まとめ方のアドバイスなどグループ内の学習を適宜援助する。そして、自分のグループで調べたマスメディアや他のマスメディアについて、一人一人の考えが深まり、「苦勞したけれどやってよかった」と思える発表会の場を設定したい。

## 2 単元の構想

### (1) 単元名

「わたしたちと情報」 (教材文『「見える」ことの落とし穴』)

### (2) 指導目標

ア 情報の受け手として、どのようにマスメディアと接すればよいのか、自分の考えをまとめようとする。(関)

イ 話し合いや意見発表会を通して、マスメディアについて進んで調べたり、発表したりしようとする。(関)

ウ 情報の受け手として、どのようにマスメディアと接すればよいのか、自分の考えをまとめそれを発表することができる。(表)

エ 『「見える」ことの落とし穴』から、テレビの持つ力や危険性を読み取ることができる。(理)

オ 教材文中でのキーワードの働きや使われ方をとらえることができる。(言)

### (3) 評価規準

ア ・マスメディアについて関心をもち、今までのマスメディアと自分との関係を振り返り、考えることができる。

・話し合いの場で学んだマスメディア全体の力を考え、自分とマスメディアの今後の付き合い方を考えることができる。

イ ・発表会のための資料作りや発表原稿作りに積極的に取り組もうとする。

・自分のグループのマスメディアと他のマスメディアとを比べながら、共通点や相違点などを聞こうとする。

・話し合いや意見発表の場で自分の考えを述べようとする。

- ウ ・初発の感想と学習後の感想と比べ、考えの深まりや広がりを実感しながら、今後マスメディアとどのように付き合っていけばいいのかまとめることができる。
- ・発表や意見交換から、自分の生活の中でのマスメディアとの接し方を考えることができる。
- エ ・テレビの長所と短所をとらえ、筆者のテレビに対する考えを読み取ることができる。
- オ ・教材文のキーワードを手がかりに、テレビの不思議な能力を理解することができる。

(4) 単元の指導計画 (全7時間 本時6/7)

時	主 な 学 習 活 動	評価(☆)、支援(★)
1	<p>＊『「見える」ことの落とし穴』を読んで新たに知ったことや感じたこと、疑問点を初発の感想用紙にまとめる。さらに、今までの自分とテレビとの接し方についても振り返る。</p>	<p>★今までのテレビに接する自分の姿勢と筆者のそれとを比べながら書くようにアドバイスを与える。</p> <p>★感想の交流を行う。その感想を集約してプリントにまとめて配布する。</p> <p>☆テレビに対する筆者の考え方を踏まえ、自分の意見や感想を初発の感想にまとめることができる。 (感想カード)</p>
2～3	<p>＊筆者のテレビに対する考え方をとらえる。</p> <p>＊筆者のテレビに対する考え方を読み取った後、初読後の感想と比べ、更にどのように感想をもったかまとめる。また、「テレビとの付き合い方」というテーマについて、更に調べてみたいことや考えてみたいことをまとめる。</p>	<p>★友達の感想を聞き、お互いの感想の深まりに気付かせる。</p> <p>★更に調べてみたいことや考えてみたいことは、全員の問題意識として全体へ投げ掛ける。</p> <p>☆教材文を学習した後、一人一人が学習の深まりを実感でき、テレビとの付き合い方を考えることができる。(感想カード)</p>
4～6	<p>＊他のマスメディアのあやふい点や優れた点、上手な付き合い方についてグループで話し合い、まとめる。さらに、まとめたものを全体の前で発表し、それに対して意見の交換を</p>	<p>★まとめる際、テーマの設定のしかた、資料の集め方についてアドバイスを与える。また、不十分な場合、教師が提示したりする。</p> <p>★まとめ方のよさに着目できるよ</p>

	する。	うな視点を設ける。 ☆話し合いや発表会を通して、自分の意見や考えを発表することができる。(発表メモ)
7	*今までの学習から、これからの自分とマスメディアとの関係を考え、今後どう注意し、どのように活用していったらいいかをまとめる。	★お互いの意見を交換し、今までまとめたものと比べて自分自身の進歩や深まりに気付かせるようにする。 ☆様々なマスメディアの優れた点や危険な点を各自が理解することができる。(まとめのプリント)

### 3 導入部・展開部における展開の概要

#### (1) 導入部における授業～初発の感想から

\*本文を通読して、初発の感想をまとめた。(資料 ①)

感想のみならず、筆者の考え方に焦点を合わせ、同感できるところや納得のいかなところ、疑問点などをまとめた。初発の感想を書けない生徒や内容を十分に把握できなかった生徒には、他の生徒の見方や考え方に触れさせ、不十分な点に気付かせるようにした。

また、日頃の自分のテレビに対する接し方や考え方と比べてみようとして支援した。

初発の感想には、次のような意見が多かった。

- ・今までテレビの映像を疑うことすらなかった。だから、筆者の考え方になるほどと思った。
- ・これからは目に映るものには気をつけようと思った。
- ・実際見に行くよさもわかるし、テレビで見ているよさもわかる。どちらも一概

にはいいとか悪いとか言えないと思う。  
疑問点としては、

- ・わたしたちはなぜ見えるものには弱いのか。

4 全体を通読しての感想

● テレビについて批判しているわけでもなく、かといってせどつかしているわけでもない、おもしろい文章だと思った。私は、現場に行かなくても、テレビで十分という意見に賛成です。本物がいちと思う気持ちには分らないではないけど、テレビで不自由しないならそれで全然かまわないと思った。テレビがいちと言わないけれど、テレビでもないと思いたい。

● テレビを見ているとき疑うとか気づいた感じがなかった。だから見ていながら気づいたことが多かった。当てることも、もちろんなかったら同じ一ついそのも人の見かたによいからなんだなと思った。

● 全体的に、私と同じ意見だ。けど、ほんの二つ番組が危険なのがわかんない。それに、見える力という落とし穴というのをもまたわけがわからな

(資料 ①)

- ・あやふいジャンルとは。テレビは本当にあやふいのか。
- ・なぜカメラを通したものはニセモノなのか。ホンモノを撮っているのだから、ニセモノとホンモノの違いはないはず。
- ・ニュースショーは本当に一番危険か。なぜ、危険なのか。

さらに、今まで自分とテレビとの接し方についても振り返ったが、やはり身近な情報源ということもあって、一番親しみやすいマスメディアで、多くの生徒がこの教材文に著されていた筆者の考え方には、驚きも持っていた。(テレビの不思議な力に初めて気付いたようであった。)

このあとお互いの感想を交流し合い、教師側で感想を集約した後、プリントにして配布した。

\*これを基に、このあと教材文を学習していく上で共通に学習していく課題を決めた。筆者のテレビの見方・考え方に迫るために、次のような大きなテーマを課題とした。

筆者はテレビをどのように見ているのだろう。  
(テレビ肯定派か、テレビ否定派か、どちらだろう。)

さらに、それを読み取るための学習課題として「筆者の指摘どおり、本当にわたしたちは見えるものには弱くすぐ信じてしまうのか、実際のテレビ番組を例にして確かめてみよう」、「見えることのあやふさ(危険性)と優位性をあげてみよう」を設定した。

## (2) 展開部における授業

\*課題を考えていく際に、「あやふい」「警戒心を失う」「～気分になる」「落とし穴」「『見える』ことを最大の武器にした」などの語句やその使われ方の工夫に生徒は気付いていった。そして、このような語句の意味を一つ一つ確認していくことで、筆者のテレビへの見方がわかっていった。

初発の感想では、筆者の批判的なテレビの見方しかとらえられなかった生徒も多かったが、教師側から「筆者はテレビをまるっきりだめだと否定しているのか」と支援発問を投げ掛けたところ、「あやふいところを愛し」という表現に気付き、肯定だけではなく、さらに否定しているのでもない筆者の主張がとらえられた。

\*ここまでの学習のまとめとして、学習を振り返り、初発の感想と比べる時間を設けた。(資料 ②)

初発の感想と比べ、各自のこれからのテレビとの接し方について述べていた生徒が多かった。それぞれの「これからのテレビとの接し方」について、全体の前で何名かの生徒から発表してもらい、お互いの学習の深まりを知る時間を設けた。

さらに、このあと調べてみたいことや考えてみたいこととして、次のような課題があがった。

- ・他の番組ではどんな点があやふいかみてみたい。
- ・テレビだけでなく、他のマスメディアではどうだろうか。

次の学習へ発展させるために、この疑問を生徒に投げ掛け、発展学習として位置付けた。

## (3) 発表会に向けての活動



の付き合い方について話し合い、発表会を開こう』というテーマで、発表会までの学習作業や調査方法の手順を示した。

- まとめ方としては、発表会を  
意識し視覚に訴えるような工  
夫として、実物を示したり、  
OHPで映し出したり、工夫

(資料 ②)

(資料 ③)

ア　ねらい

・他のグループの発表を聞き、マスメディアとの付き合い方について自分の考えを深めることができる。

— 70 —

学習活動・予想される生徒の反応	評価（☆）、支援（★）
<p>・前時にグループ内でまとめたマスメディアの、あやふい点やその付き合い方について作成した資料を発表する。</p> <div data-bbox="169 469 697 848"> <p>テレビ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・際限なく見てしまう</li> <li>・テレビに合わせて予定を立てる</li> </ul> <p>ラジオ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音だけなので、様子がわからない</li> </ul> <p>新聞・雑誌</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見出しやグラビアなどに引かれる</li> <li>・情報を得るのが遅くなる</li> </ul> </div> <div data-bbox="169 848 697 1020"> <p>付き合い方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で取捨選択していく</li> <li>・よさも悪さも含めて付き合う</li> </ul> </div> <p>・他グループの発表を聞きながら、各グループへの質問や発表内容に対する自分の考えをまとめる。（自分たちのグループの調べたマスメディアとの共通点や相違点などを比較しながら、発表メモにまとめる）</p> <p>・発表メモにまとめた質問や考え、感じたことを発表者に聞き、意見交換をする。</p>	<p>★発表の際、どんな点を中心に聞いたり、発表したりすればいいのか観点をしめす。</p> <p>★自分たちの調べたマスメディアと比較しながら聞くように指示する。</p> <p>★資料の提示の工夫、発表の仕方、まとめ方のよさなど、各グループの発表のよかった点も聞き手から意見をもらう。</p> <p>☆発表者は聞き手にわかりやすいようにポイントをおさえて発表しようとしていたか。また、聞き手は各グループの発表を、自分たちのマスメディアと比べながら聞こうとしていたか。（発表の仕方、原稿や資料、メモ）</p> <p>★質問内容や自分の考えを同グループで確認してから、意見交換する。</p> <p>☆話し合い活動にめあてをもって参加し、進んで考えをまとめたり、述べようとしていたか。</p> <p>☆話し合いを通して、どのマスメディアにも優れた点と危険性があることと、その付き合い方がわかったか（発表メモ）</p>

## ウ 展開の概要

\*各グループの代表者による発表。休憩時間や放課後の時間などを使い、資料作成には思ったよりも時間を費やしてしまったが、各々発表には工夫がみられた。実際に雑誌や新聞を持ってきて写真やグラビアの記事を見せたり、OHPや大洋紙にまとめたものを提示したり、ラジオやテレビを調べたグループは録音したテープ・録画ビデオを流したりと、わかりやすい発表にしていた。発表原稿の文章にも人を引き付けるようなまとめ方の工夫がみられた。次はその発表原稿の一部である。

『2-3の3班が追う！雑誌のいろんなひっかけ手口とは！？』みなさんはこのテーマを聞いてどう思いますか。これは私が雑誌の見出しを真似て作った題なのですが、なんだか後を知りたくありませんか。そしてつい雑誌を買ってしまい、損をした経験がある人もいるでしょう。これからその「つい」の原因となっている「雑誌の力」を探ります。(中略)このようにあまり気にしてないところで、わたしたちは雑誌の力に引き寄せられているのです。(略)

6班は『なぜテレビに引き付けられるのか』というテーマで進めました。まず初めに、テレビの不思議な能力を考えました。この見出しを見て下さい。見たくなるような見出しだと思いませんか。どうしてこんなにテレビに引き付けられるのでしょうか。ここでVTRを使って説明します。(中略)またあやふい点を説明します。それは気になる終わり方をすると、次週も必ず見なければという気持ちにさせます。これは番組を作る人たちが上手に作るからでしょう。(中略)このようにわたしたちは普段からテレビを見るのが当たり前になってしまっているのです。毎日の日程がテレビ中心になっているのです。うまくテレビと付き合っていくには、自分に必要な番組なのか判断をきちんとしていかなければならないと思います。

### (資料 ④)



メモ	氏名 ( )
*発表を聞いて、必要に応じてメモしていこう。自分たちのグループで調べた内容と比べながら聞くといふ。	
テレビ	ワイドショーなども雑誌などのように見出しが似ているような点がいっぱいあった。
2班	おかげさまで気づけよう。 1班もだいたいいきなり、実物とかコピーしたものがあってよかった。
ラジオ	いろいろな人のいろいろな話、雑誌やテレビよりも面白い話ばかり聞けるのでは？
雑誌	ほかのマスメディアより保存しやすいかも？ 見たいときに見ることが出来る！
5班	見出しを信じちゃいけないよ。 テレビのヒートやみんなが信じてしまうような話があるから良かった。 価格などいろいろな面から調べてあった。



グループの発表後、質問や発表に関して感じたことを意見交換した。内容のみならず、それぞれの発表のよさ、工夫していた点なども聞き、各グループの作業の努力を認め合う場も設けた。また、発表になかった優れた点や危険な点についても、聞き手から意見をもらい、気付かせるようにした。(資料 ④)

生徒たちはどのマスメディアにも優れた点と危険な点の両方があり、わたしたち利用者は付き合い方に注意しなければならないと主張した。

## 5 考察

### (1) 発展部までを見通した動機付けをすること

導入部は、発展部までを見通したこれからの学習への意欲付けや動機付けを図る部分である。今回は教材文自体が生徒にとって興味が湧くような文章であったことや、筆者の考えが普段生徒が考えもしなかったような考え方だったこともあり、教材文との出会いは新鮮かつ驚きをもつものであった。生徒の興味・関心や疑問点から実態を把握し、このあとの学習を進めるため、初発の感想から学習課題を立てた。「自分の今までのテレビへの接し方を踏まえて」というアドバイスを与えたところ、多くの生徒は筆者の見方や考え方に驚きをもったという感想だった。生徒一人一人の見方や考え方を大切にするため、その感想を集約し、プリントして配布した。その結果、他の考えに触れることもできたし、自分の初発の姿としてもとらえられたと思う。

この学習は出発時点での興味・関心の程度、問題点を発見する力、これからの学習の方向などがわかり、個の考えを生かすための大切な資料になった。しかし、導入部では発展部まで興味・関心や意欲が持続できるような動機付けがもっと必要であろう。例えば、筆者の見方・考え方を参考に、書きぶりをとらえさせ、「学習の終わりに筆者のように解説者になって他のマスメディアを語ろう」というテーマを設定し、導入段階で発展部の学習を事前に予告し、学習のめあてをもたせる必要があった。また、ここで、教師や他の生徒が共感したり、励ましを与えるような場面を設定すると、より意欲が最後まで持続できるのではないか。それを考えると、今回の動機付けは学習していく必然性や必要性に欠けており、果たして有効であったかどうかは疑問である。

### (2) 学習を振り返る場面を設定すること

学習を振り返る場面として、何回か感想や考えを書いた。この活動が個人の評価材料となり、初発の感想からは課題を導き出し、この後の教材文を読み取る学習の指導へとつなぐことができた。また、教材文を理解した後の感想では、初発の感想と比べることにより生徒一人一人、自分の学習の深まりや広がりを実感させることができた。しかし、この場面で一人一人の変容を教師がとらえることができ、深まった点をもっと褒めたり、不足な点を援助したり、支援の方法を明確にしておくべきであった。そうすれば、発展部への展開にもスムーズにつながりがもてただろう。単元の学習後、まとめとして大きなマスメディアというものについて、自分との今後の付き合い方を考えさせたが、次はその中の感想である。

テレビだけでなく、さまざまなマスメディアにはあやふい<sup>あやふい</sup>点がすごくあることを知った。でも、発表にもあったように、マスメディア自体が悪いのではなく、その番組やニュースなどを作っている人たちがマスメディアの特性を利用して、わたしたちを陥れているところも多いと思った。“マスメディアとはそういうものなのだ”と今回の学習で感じた。あきらめというより、いい面も悪い面もしっかり知った上で、今後マスメディアと付き合っていこうと思う。(T男)

こんなに引っ掛ける点(手口と呼ぼう)が、マスメディアにあるとは…。でも、私はもともとテレビもラジオも雑誌も好んで見たり聞いたりするほうなので、これからも仲良く付き合っていきたいと思う。(優れた点だって本当に多いのだから)しかし、普段の生活にこんなにまでマスメディアが入りこんでいることを改めて知った。知らないうちに…といってもいいぐらいだ。(A子)

以上のように、マスメディアのよい面も悪い面も受け入れた上で、上手に付き合っていくことを生徒は学んだ。教材文からテレビの不思議な力を知り、意見発表の場から他のマスメディアの力を知り、大きなマスメディアというものとわたしたちとのつながりの深さも学ぶことができたことがわかる。

### (3) 発展部の活動として意見発表会を設定すること

発展部では、一部の生徒の「他のマスメディアではどうなのか、調べてみたい」という新たな疑問を基に、それを全体に投げ掛けたため、意見発表会という場面を設定でき、発展部の学習へとつながった。この疑問から、意見発表会をしようという次の学習への方向付けが生じたといってもいいだろう。この発表会という場で、調査活動に生き生きと取り組める場面を設けることができた。このような発表会の形態や意見交換の方法はいかなる方法であろうとも、生徒の疑問や願い、学習を深めたい気持ちなどを大切にして、発展部に深化・発展させる学習活動を設定しなければならない必要性を感じた。グループ学習については、今までこういった学習経験がないため、どのように調べたり、まとめたりすればいいのか戸惑う生徒が多いと考えた。そこで、話し合う雰囲気ができている生活班ごとに一つのマスメディアを担当させた。しかし、自分の興味のあるマスメディアを選び、それを選んだ仲間ごとに話し合いや資料作りに取り組ませたほうがより活発に話し合われ、取り組み方も違ったと思う。また、このような学習活動の場面を何回か設定していくことで、今後はどんなグループであっても、応用できると考える。

生徒はこの活動に関心をもって取り組み、この活動を設定したことにより、一連の学習のつながりが生徒の考えを深めることになったと思う。また、活動をしていく中で、グループ学習の楽しさを得、お互いの発表や追求方法のよさを認め合うことで、生徒は「発表会をしてよかった」「資料作りに頑張ってたよかった」という活動の成就感を得ることができた。

(上越市立城西中学校教諭 伊藤 薫)